

## 市民活動促進委員会 第2回会議要録

2005.7.2(土)

コミュニティセンターやす会議室1

開会(9時30分)

あいさつ(事務局)

委員に対する謝礼は、年間トータルでお支払いさせていただくことを了承願います。前回から引き続きの課題となっていたアンケート調査について、議題として、事務局から説明させていただきます。

概要

(事務局) 本日の主題であるアンケート調査ですが、前回に配布させていただいたアンケート調査(案)をご確認下さい。また、会議の進め方に対する提案として、別紙資料「委員会の調査研究体制」を配布させていただきました。みなさん気軽にご発言いただけるようグループを設定させていただいてはどうか、ということです。

定例会は毎月第1土曜日ということを決めいただきましたが、会議の進め方としては、16名の委員みなさんを4班に分けて、調査研究グループをA班～D班を設定、4人で1グループ、それぞれの班で班長を設定し、また、班に担当職員を置き、班長との連絡調整、グループのマネジメントを補佐する、という点です。各班の担当職員としては、橋課長、布施、南野、政策推進課から藤村主査の4名で補佐させていただきます。

(委員) グループの会議を別にするということが。

(事務局) 進行は、全体の中で決定いただいたうえで、グループでの議論をお願いすることになります。

(事務局) 定例会ごとに、4班で意見を出し合い、発表し、全体の会議で合意形成していくということになります。定例会イコール班がいいと思います。運営の手法です。16人ではなかなか意見が言えなかったり、時間がかかるという面もあり、コンパクトにしていこうということになります。

(事務局) 今回のアンケート調査を議論いただくのに班を設定させていただいてよろしいか。

(委員) 調査研究グループを固定するということが、グループ以外の委員との交流も考えあわせて作業内容に応じてグループを決定していくという方法もあると思うが、どうか。

(委員) そのときどきにグループが変わっていくのはわかりにくいし、ヒアリングする際にもわかりにくいと思うが、話し合いも全体の会議でできると思う。

- (委員) 終着点がはっきり見えていないのではないかと。詳細に何かを調査していくのか、それがわからないのでは進められない。
- (事務局) 最終の終着点ということですが、アンケート調査の要領案をご確認ください。この中では、主な項目としてA～Hを設定しており、団体の現状把握はデータブックに反映するという点と、具体的に活動の問題、課題として設定している点、また、連携という視点で、他団体、企業、行政それぞれの連携についての意向を把握するという点で設定している。
- (委員) 各種団体で、こまっていることを書いていけば、行政で回答していただけるのか、行政の部署で団体の活動を全く知らないところもある。
- (事務局) 団体活動の把握と市民活動促進のための方向づけがメインであり、それがないと協働が実現できないということになりますので、その点で調査研究いただくというものです。野洲市としての裏付けをして、条例化を目指していこうとするものです。
- (委員) 最初から形式にこだわって、形式が先行しているように思う。課題につきあたってからその手法を考えていくべきではないか。でも、今の説明でよくわかってきた。
- (委員) 団体ヒアリングというと、行政ではないので、委員が直接伺うと、知らない団体では不信に思われたりすると思う。
- (事務局) 前回の野洲町では基本的には知り合いの団体などを委員のみなさんでチョイスして1人10団体を担当し、委嘱状と名刺を持っていただいたりしていました。
- (事務局) アンケートの意図するところもご説明させていただいたと思いますし、手法としてアンケートとヒアリング、委員会での議論という3つの進め方を予定しています。まず、今回のアンケート調査についての議論は、どうでしょうか。
- (委員) まちづくりの実態を調査するという点で、まちづくりの主体は市民であり、市民が直接かかわっていけばいいのではないかと、という個人的な結論に達した。自治会という保守的なところであっても、主体的に活動しようとする市民が大切である。
- (事務局) それでは、グループ分け名簿を事前に作成しましたので、ご確認をお願いします。4つの班で4名ずつ、前回配布したあいうえお順の名簿で、性別、旧野洲、旧中主という点を考慮して、設定させていただいた。ご欠席の委員の方がいるので、A、BとC D合同の3つでお願いします。11時を目処に班別に議論をお願いします、後ほど班で発表をお願いします。また、各班においてできましたら班長をお決めください。

#### A班

- ・ 調査目的について、行政と団体の間で対等な関係という視点があるか、という点
- ・ 調査対象について、カルチャー、好き寄りの団体を対象に入れるのか、という議論になった。目的、活動実態をみて判断していくものだが、ボーダーを引くことが難しいという結論。
- ・ 調査項目について、項目数が多すぎるのでは、という意見と、実態に即して、書ける

ところもあるという意見があった。実態を把握するために、対象を広くするほうがいいのではないか。

- ・企業との連携という考え方は、地元企業を主に考えた方がよいのではないか。企業との関係については、これまで協賛金、寄付などが主であったが、青少年、環境問題など、企業に出てもらえる機会も多い。
- ・団体間の協働として、情報を交換しあって、市民活動に参加してもらえよう行政の応援が必要。
- ・問 19、20 については、行政も市民の 1 人、という視点が必要である。協働の視点に立った項目内容になっていないのではないか。
- ・地域社会づくりの団体 = 市民活動団体という点、地元企業を中心に考えていくべきということであった。
- ・問 20 行政に期待するところ、「情報」が一番で、「金銭的な支援」を下欄に、その他の前くらいに順番を変える。

#### B 班

- ・設問項目の多さ、団体分類について、もう少し考えていくべき
- ・調査対象団体は、社会的に貢献活動されている団体、趣味でがんばっている団体もあるが、社会貢献活動を主に実施している団体
- ・連絡先の公表は、基本的に団体の選択で
- ・活動の発表の場所がないという課題が多い。
- ・前回のデータブックでは、膨大な情報であり、冊子を数ページのものにして、全戸配布できるようにしたい。分類で、簡素に大枠でわけてから小枠にしてスマートなものにして、配布したい。また、こうした活動団体を行政にも知ってもらいたい。
- ・男女割合も大切な質問。野洲市、新興住宅地、男性の退職者、参加者は、男性が少ないと思われる。

#### C 班・D 班

- ・アンケートの送付先で、組織形態の中にもあるが、野洲市企業人権啓発推進協議会の参加企業へもアンケートを送付してもよいのではないか。企業内での活動団体もあるのではないか。
- ・旧野洲は数年前に実施、旧中主とは違うので、配慮が必要
- ・問 4 の (1)(2) で男女と年齢のマトリックスとなる設定にすべき、つまり各年齢階層の男女比率がわかるような設問が必要ではないか。
- ・4 ページの C は、全体的にネガティブである。
- ・5 ページの連携は、シンプルに整理してはどうか。
- ・目的として何のためのアンケートなのかを提示したうえで、個人情報保護の点もはっ

きりさせておくべき。情報を公開するときどこまで見せるか、連絡先の公表欄も補足説明が必要である。

全体をとおして

○対象団体について

- ・調査対象とする団体について、委員会の共通認識が必要ではないか。
- ・演奏などの趣味の会でも、活動の中において福祉施設で演奏されている例もある。
- ・市民活動団体の定義については、ボランティア、NPOなどが中心となるが、純粋に趣味という団体は対象外と考えるが、団体自身の判断を尊重してアンケートを返信された団体を対象とする、という整理もあるが、どうか。
- ・趣味の団体でも、会員を増やしたくない団体は、意味がないが、会員をひろく募りたいという団体がいる。
- ・会員募集するということは、不特定多数を受け入れる土壌があるのではないか。団体の内部だけでやっているものは、社会性という視点で市民との接点がないが、その線引きは難しい。
- ・純粋な趣味の会かどうかの線引きは難しい。
- ・アンケートを送付する際には誰にもわからない。
- ・地域社会に貢献する団体を盛り上げていこうとすることを目的と考える
- ・駐車場管理する団体でも、不法駐輪をなくそうという活動をされている。全ての団体を把握しないとわからないのではないか。
- ・基本的には、調査回答された団体が自らの活動を市民活動と判断されたものとしたほうがいいのではないか。協働する際、何かをしようとする際に選んだらいいのではないか。
- ・その団体がどのように思っているか、という団体自身の意識の問題でわからない、活動実態として外に向いているかどうかを判断基準に対象団体を区分してはどうか。
- ・活動場所にもよるのではないか。
- ・趣味の会でも、消極的ではあるものの、地域の受け皿になるのではないか、対象を限定しないで、その団体の成長という視点を入れた方がよい。今の時点のみでとらえて限定すべきではないと思う。

(事務局) 目的からも、市民活動団体の対象を広く捉えて対象とし、団体の自主的な判断により、調査回答いただくものとします。

- ・アンケートは、対象を線引きしないでもいいと思うが、把握していない団体もあるので、公表しないといけないのではないか。

(事務局) 市広報、HPを通じて周知していきます。

- ・データベースを更新していくサイクル、メンテナンスは必要。それでこそデータは生きてくる。
- ・問 19、20 で、協働のまちづくりを目指しているのに協働という視点が弱い。行政から支援されるという視点ではなく、協働という回答選択が必要。

(事務局)以上の意見から、設問を個々に修正する点など、事務局で整理したものを再度、委員各位に送付し、確認のうえ、アンケート調査を実施します。

(委員)委員会は、ワーキンググループであり、キーワードは、協働とまちづくりの促進のための方向であり、読みにくいので、シンプルにしていきたい。先をみて、まちづくり基本条例骨子案の作成という目処もあり、たたき台をつくって検討していきたい。

(事務局)各班で選出いただいた班長さんを後でご報告ください。他にご意見がなければ、閉会します。ありがとうございました。

閉会(午後0時10分)